

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270201454		
法人名	医療法人 梶田医院		
事業所名	グループホームみのりの里 たんぽぽ		
所在地	長崎県佐世保市長畑町507番地1		
自己評価作成日	令和 7年 10月 20日	評価結果市町村受理日	令和8年1月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/">http://www.kaigokensaku.jp/42/</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内		
訪問調査日	令和 7年11月19日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中で、入居者様が自分らしく生活していただけるように、また、年長者としての尊厳を大事にし、傾聴を基本とした支援を心掛けています。入居者様も職員もみんなが笑顔で過ごせるよう支援しています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は法人内の施設に隣接しており、日頃から互いに協力する関係である。母体は医療法人であり、法人代表が毎日訪問しており、入居者や職員に声を掛けることで精神面および健康面の安心に繋がっている。看取り支援を行っており、体制が十分に整っている。理念の“実りたたる 稲穂のように いつまでも自分らしくあり続ける 人生を送る”を管理者と職員が理解し、本人の思いに沿った自由な暮らしの実現に向けた介護に取り組んでいる。入居者を第一に考え、そのために職員自身も楽しく関わることを大切に、笑いのある温かなホームづくりに努めている。職員手作りの料理は、味、バランスも良く家庭的であり、入居者の希望で刺身の提供もある。家族の協力や連携を大切に、入居者のメンタル面を把握しながら笑顔を引き出し、入居者の自由で自分らしい暮らしの支援に努めている事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	休憩室の目につく所に理念を掲示しており、ほとんどの職員がその人らしさや寄り添う介護に努めている。	開設当初からの理念には、入居者がいつまでも自分らしく、その人らしく生活できるようにとの思いが込められている。理念は施設内に掲示しており、日常的に目にする事で職員が意識できる環境を整えている。職員は、本人の意思を尊重した声掛けを行い、自由な暮らしの実現に向けた介護を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日頃から近所の方々と挨拶を交わしたり、年に2回の一斉清掃前にはゴミ拾いを行っている。また、こども園との交流はプレゼントの交換を継続している。敬老の日には、町内住所の入居者へ紅白饅頭を頂いている。	職員は、近隣の住民と挨拶を交わし、何か気づいた時には知らせてもらうなど住民との関係を築いている。また、周辺の清掃を行うなど、地域との日常的な交流にも努めている。近くのこども園とは園児の訪問を受け、玄関先でのプレゼント交換を継続している。町内会長や民生委員から情報を得て、地域とのつながりを深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の一斉清掃前のゴミ拾いをしたり、運営推進会議を活用している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて近況報告をして、助言やご意見をいただき、サービスの向上に努めている。	年6回、既定の参加者で、法人3グループホーム合同で開催している。事業所の状況、取組み報告、参加者の気づきや質問など報告書にて確認できる。身体拘束等適正委員会もこの場を活用し、毎回参加者が学ぶ機会となり、会議が楽しみとの意見もある。ただし、家族代表以外の関係者には会議内容が周知されていない。	運営推進会議の議事録から、会議内容が充実していることが確認できる。家族代表以外の関係者にも会議内容が伝わるよう周知を検討し、事業所の運営や取り組みに対する一層の理解と協力を得る取組へと繋げていくことに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市主催の研修に参加したり、担当者と手続き等のやり取りを行っている。包括支援センターの職員とも情報交換を行っている。	日頃の行政との連絡は、FAXやメールで行い、急用や介護保険の申請、更新など支所に出向いて対応している。保健所や消防署の研修、市主催の研修には、オンラインや対面で参加している。年1回担当課から訪問があり相談したり、包括支援センターとも連絡を取り合い協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等の適正化のための指針を掲げ、全職員が正しく理解しており、身体拘束のない支援に取り組んでいる。	身体拘束等の適正化のための指針を整備し委員会を運営推進会議を活用し開催している。研修は年3回行い全職員が報告書を提出しており、拘束のないケアが基本である。玄関の施錠も夜間のみで、事業所外周の防犯カメラで安全対策を講じている。とっさに出る制止する言葉は、疑問形や質問系に変え対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修やミーティングでも取り上げ、虐待のない支援に取り組み、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の機会があれば参加している。現在、該当する方はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	本人・ご家族と話す機会を設けて、その方の想いを受け止め、十分な説明をして、ご理解・納得して頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本人やご家族の想いを大事にして、電話や面会時に連絡してご相談やご理解を得るようにしている。	事業所は、家族へ年4回のホーム便りを手渡しし、家族の訪問時や電話にて入居者の状況を伝え、意見や要望を伝えやすい環境づくりに努めている。苦情対応の体制も整えている。家族の希望による外出や外食にも対応している。職員は、入居者にさりげなく寄り添い、不満や不安を汲み、穏やかに過ごせるよう日々の支援に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送りやミーティングの際に意見交換を行ったり、普段から話しやすい雰囲気になるよう心掛けている。	法人代表は、毎日事業所を訪問し、現場の様子を把握しながら職員とのコミュニケーションを図っている。職員は、毎月の会議や申し送りの場で提案や意見を出し、ミーティングノート等を活用し情報を共有している。職員の意見を受けて備品を購入したり、有給休暇取得やシフト変更にも柔軟に対応するなど、働きやすい環境を整えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	極力、個々の労働条件を叶え、働きやすい環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の参加を呼びかけ、個々のスキルアップになるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡協議会の定期的な会議や研修に参加して、交流出来ている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の想いを傾聴し、寄り添う事で、信頼関係を築き、安心して生活できるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望を傾聴し、ご本人の近況報告や情報交換を行い信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の情報をアセスメントし、「その時」の状況に応じた対応が出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の生活を見守り、出来る事は手伝ってもらいながら、寄り添い、安心して生活して貰えるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に近況を報告し、遠方の方へも電話連絡をして、疎遠にならないように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族が面会しやすい雰囲気となるよう笑顔で対応し、事業所の携帯電話を活用して、会話を楽しんでもらっている。	職員は、面談で把握した入居者の生活歴や習慣を、フェイスシートを用いて情報を共有している。家族や孫等の訪問、玄関先での飼い犬との触れ合いのほか、事業所の携帯電話で居室にしながら家族と通話できるよう支援している。自宅への外出も支援しており、入居者にとっての馴染みの継続を大切に支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆様と一緒にレクリエーション等を行い、関わりを持ち、支えあえるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご縁があった事に感謝して、いつでもお声掛けして下さいとお伝えしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の希望や意向を尊重し、その方の想いに沿えるように支援している。	職員は、入居者に寄り添い思いや希望をくみ取り、自由な暮らしを支えている。難聴のある入居者には耳元でゆっくり話しかけ、傾聴に努めている。日により気分が変わっても、笑顔で接し、歌や洗濯物たたみなど好みに応じた活動を支援している。入居者の思いは申し送りノートやケース記録に記入し、全職員で情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・ご家族からの情報を基に、過去の生活環境が把握出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の心身の状態を把握し、職員間でも情報共有して、その時々での支援が出来るよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・ご家族の意見、職員間での情報交換を行い、主治医や看護師と連携し、その方の現状に応じた介護計画となっている。	初回の介護計画は、環境に慣れることも含め、本人や家族の意向に沿って作成している。更新時には、家族の訪問や電話を通じて意向を確認し、長期1年、短期6ヶ月で見直している。職員は、ケアシートに実践状況や気づきを記録し、モニタリングを行っている。医師の指示や入居者の楽しみとなる要素を支援内容に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、ケース記録や業務日誌等を記入して、情報の共有を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況に応じて、ご家族様との時間も大切なので、外出や食事に出かけてもらうようお願いしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議で入居者様の状況報告をしたり、こども園との関係性も途絶えないように、定期的に連絡をとっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療法人で、主治医や看護師との連携もとれており、往診や定期検診で普段の健康状態の把握もできているので急変時の対応も早い。	かかりつけ医の受診は、家族の協力を得て対応しており、必要に応じて職員が同行している。家族が同行する際には、入居者の状況を文書化し共有している。内科や歯科の訪問診療や訪問看護も活用している。母体が医療法人であることから、夜間や緊急時にも連携できる体制が整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師とも相談しやすく、日常的に情報交換が来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中にも定期的に訪問し、病院関係者との関係作りを行い、情報交換をして、早急に退院出来るように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際、重度化や看取りについて説明し同意を得ている。また、主治医や看護師との連携体制をとり、チームでの支援が出来るよう取り組んでいる。	事業所は、看取り支援に取り組んでいる。利用開始時、重度化および看取りに関する指針を説明し、家族から同意を得ている。医師が意向確認を行い、内容を共有している。職員は看取りの研修を受講し、支援後の振り返りも行っている。日々の関わりでは、後悔のない看取りができるよう寄り添いながら支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを基に、発生時には直ぐに対応できるよう備えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	マニュアルやBCPの作成をし、定期的に訓練を実施し有事に備えている。また、施設内での火器使用は禁止している。	年2回の避難訓練を実施し、うち1回は消防の立会いである。BCPを策定し、地震を想定した訓練を行っている他、夜勤者は夜勤に入る際、火災等の避難を想定しシミュレーションを行っている。台風時には早めの対応を取り、食料や水を確保している。入居者の写真付きの持出し品もある。ただし近年、日中想定訓練を行っていない。	日中の人の動きや配置を想定した訓練も取り入れていくことが望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に敬語で対応し、傾聴に努めている。また、日常の支援時や職員の会話についても周囲への配慮をして個人のプライバシーを損なわないように配慮している。	職員は、一人ひとりの人格を尊重した対応を行っている。トイレ介助は居室で行っており、介助時には居室のドアを閉め、プライバシーに配慮している。排泄支援など、羞恥心に気を配り直接的な表現を避けた声掛けを行っている。個人情報にかかる書類はキャビネットに保管し、守秘義務を徹底している。写真使用の同意書を取得している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傾聴を心がけ、自分の思いを伝えられるような環境作りをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	見守りや傾聴を重視し、出来るだけ本人の希望に沿った支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人が持参されたものや、状況によっては、ご家族に相談して持参していただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お好きな物を尋ねてメニューに加えたり、手作りおやつや季節の食材を取り入れている。行事の際には、特別メニューを楽しんでもらっている。	入居時には嗜好調査を行い、好みの調理法についても確認している。職員は、日々の献立を入居者の希望を聞きながら考え、調理を行っている。敬老会には祝い膳の出前を取り入れ、誕生会ではリクエストメニューを提供している。梅干しなどを手作りしたり、茶話会なども実施しており、食を通じた楽しみや交流の機会を大切にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の現状に応じた食事形態や食事量を提供している。また、水分は、ペットボトルを準備することもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の能力に応じて声掛けや確認、介助を行っている。義歯の清潔にはポリドントを使用している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、出来るだけ失敗の無いよう支援している。また、オムツ使用の方も状況に応じて、トイレでの排泄が出来るよう努めている。	職員は、居室トイレでの介助を行い、排泄状況を記録している。パッド類の使用頻度やサイズを見直し、パッド類に頼りすぎず、布パンツの使用も検討している。入居者が快適に、できる限り自然な形で日常を過ごせるよう、一人ひとりに合った支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食事の提供や水分補給を小まめに行い、排便促進されるよう取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日はあるが、本人の希望に沿って支援している。また、季節感を楽しんでもらえるように菖蒲・バラ・ユズ湯の提供をしている。	事業所では、週2回の入浴支援を行っており、無理に促すことはせず、入居者の状態に応じて浴槽に浸かったり、シャワーや足浴などを支援している。脱衣所は温度管理を行い、快適に過ごせるよう配慮している。柚子湯やバラ湯など、季節を感じたり、香りを楽しめる入浴となるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時々状況に応じて、気兼ねすることなく休息がとれるようお声掛けしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情をファイルして、把握と共有をしている。また、変化があれば、主治医や看護師・薬剤師と連絡を取っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の能力に応じた生活レクやお手伝いをお願いし、やりがいを感じてもらったり、テレビで時代劇やドラマを楽しまれることもあり、自由に過ごしてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や季節に応じて、玄関先でティータイムや周辺の散策を楽しんでもらっている。また、可能な方は、ご家族との外出も楽しんでもらっている。	天候や入居者の体調に応じて、事業所周辺を散歩しており、車いすの入居者も一緒に出掛けている。散歩コースには桜などが見られ、季節感のある環境となっている。玄関先では外気浴を兼ねた茶話会を催し、入居者の楽しみとなっている。買い物や外食については、家族の協力を得て実施している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人やご家族の希望で現金を所持している方もいらっしゃる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設の電話で、ご家族と会話する機会を設けている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた作品をフロアに掲示したり、共有スペースでも個々が自由に過ごせる空間になっている。	広いリビングでは、テレビ鑑賞したり歌を歌ったり、入居者が思い思いに過ごす様子が覗える。季節の手作り作品やカレンダーなどを壁に掛け、季節を感じることができる。キッチンでは、調理する職員の様子が見え、料理の音や香りは家庭的であり、掃除も行き届き、室温も快適で、入居者が自由に過ごせる工夫がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方は、食事やレクリエーション以外でも会話を楽しまれたり、交流されている。一人での時間も大切にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れた物や、ご家族の写真などを飾っておられる方もいらっしゃる。また、本人の状況に応じて、本人やご家族と相談しながら、ベッドや家具の配置を変えることもある。	居室にはトイレ、洗面所、クローゼットの設置があり、自宅から使い慣れたソファ、時計、テレビ、整理棚、単行本など持ち込んでいる。家族の写真や手作り作品を壁に掛け、テレビや本を見たり自由に、ゆっくり寛げる居室である。職員が掃除や換気を定期的に行い、清潔で臭気もない。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室が分かれるように、入りロドアに表札を付け分かりやすくしている。また、歩行動線の妨げにならないように家具の配置を工夫している。		